



こども病院のボランティア活動 よその病院はどうしてますか？



ボランティアのこども病院 ボランティアとコーディネーターの会

こども病院ボランティアとコーディネーターの会

- WEB会議参加施設 (10・3)**
- ① 宮城県立こども病院
 - ② 埼玉県立小児医療センター
 - ③ 神奈川県立こども医療センター
 - ④ 大阪母子医療センター
 - ⑤ 沖縄県立南部こども医療センター
 - ⑥ 静岡県立こども病院
 - ⑦ NPO病気の子ども支援ネット

2024年10月3日(木)
on-line会議13:30-

https://us06web.zoom.us/j/84923603093?pwd=91m3ScF8ZyFVdFdzcy7smdQnQ2Vnp.1
ミーティングID: 849 2360 3093
パスコード: 132800

【当日のプログラム】
1, はじめのあいさつ
2, 参加者・施設紹介
3, 各施設からの活動紹介・報告
4, 課題共有
5, 質疑応答
6, 感想・総括

**全国6病院が参加
宮城、大阪、静岡、
沖縄、埼玉、神奈川**

こども病院ボランティアの会: boranboraconokai@gmail.com



第17号 2024/10/30 発行
事務局 東京都新宿区若松町10-1-302
☎080-5527-4379 代表 坂上和子
<https://boranboraco.jimdofree.com/>

島根大医学部附属病院小児センター



写真上 元患者家族による手作り作品
(季節ごとの壁面装飾)

写真下 保育士さんの案内で病棟を見学
ボランティア活動についての情報交換



17号主なお知らせ

- ① 外来ボランティアの情報交換 (裏面)
- ② 総合病院小児センター見学と情報交換 (島根大医学部附属病院小児センター)
- ③ 日本家族看護学会学術集会の交流会報告

① 外来ボランティア6施設の外来担当ボランティアがZoomに参加し、意見交換をしました。中でも皆さんが驚かれたのはネグレクト対応をボランティアが病院と協力していたことです。「何か変だな」、外来で見かけた気になったことがあればすぐに報告し共有できる体制を病院が整えているというところ。それを聞いて「そういうえば思い当たる」ということが度々あるが、そこまではシステム化されていないのでも検討してみますと。

② 総合病院小児センター見学と情報交換 (島根大医学部附属病院小児センター)の報告です。こども病院のボランティア活動は本会で情報共有が出来ますが総合病院の活動がよく見えません。全国の病院を訪問されているクラウンの大棟耕介さんに「島根はすごく頑張っているよ」と聞いて加藤さんと訪問しました。病床数29床で病棟に院内学級が併設され、家族が泊まれる宿泊施設も敷地内にありました。また「ひとりのこどものために、今できることを、そして将来の幸せのために」をモットーとし、子どもの遊びや成長を大切にし、家族が安心して暮らせる療養環境が整っていました

ボランティア活動では①院内の壁面装飾をボランティアが提供。②付き添いのためにヨガやハンドマッサージがある。③隣に医学部が併設されていて、医学生が遊びのボランティアに入っている。④イベント時のサポートとして「島根あそびの会」が協力。④おもなイベントはクラウン、人形劇、絵本カーニバル、ピアノ等。⑤ボランティアの対応は医療サービスクラスと小児科(CLSと保育士)が行っている。⑤地域からのボランティアの受け入れはしており、今後研修の充実を考えていることなど伺いました。帰りのタクシーで運転手さんなどに話しかけられました。「お客さん、どっから来たんですか?」「東京からです」「何しに?」「カクカクしかじかで、小児センターのボランティア活動について勉強にきました」「へえ、東京からわざわざねえ、ここの病院、とくに小児科は地元でも有名なんですよ、スタッフが優秀なんですよ、設備もいいし、島根だけでなく、遠くからも来ますね」「私たちも感心しました。病院に院内学級があったり、宿泊施設もあって、大変充実した病院と思いました。医学部が併設されて、医学生が子どもさんと遊んだり、子どもたちの育ちと付き添い家族の環境も大切にされた素晴らしい環境でした。ボランティアの方がいらっしやるか?どんなふうに関わっておられるか?その働きについても教えていただき、とても参考になりました」

NPO法人 病気の子ども支援ネット遊びのボランティア
坂上和子(ソーシャルワーカー)



③ 日本家族看護学会学術集会の交流会報告
神奈川県立こども医療センターボランティアコーディネーター
加藤悦興

日本家族看護学会学術集会の交流会で、ボランティアコーディネーターの仕事について話す機会を頂きました。この仕事につく前、私は看護師をしていました。子ども病院におけるボランティア活動はいろいろあります。庭の手入れや装飾や外来案内、絵本の読み聞かせなど。次の事例はコロナ禍前の話です。

ある日、看護科長から「病棟で遊ぶ欲しい子がいる。日中ベッドの中にと落ちて着かなくなるので、バギーに乗せて病棟内の散歩をさせて欲しい」。それは母親からの要望でした。その科長とは普段からよくボランティアの話をしていたので、このときもすぐに相談されました。けれどもこれは簡単ではありません。子どもの安全が守られて安心して託せる人が必要で責任も生じます。そこできょうだい預かりの保育士に相談しました。きょうだいで遊ぶボランティアなら子どもとの関りに慣れています。保育士がそのことをボランティアに伝えて交代で

3人が病棟に入ることが決まりました。その結果子どもはベッドから離れて十分な時間をかけて散歩が出来ました。母親から「散歩出来てよかった」、職員からは「とても助かった。職員はずっと一緒にいられない。ボランティアアさんがバギーを押して病棟の中を散歩していると様子もわかって安心だった」と。一方ボランティアたちからは「病棟は大変です。喜んでいただけ良かったです。また声かけて下さい」と言われました。この事例がきっかけで現在も別の病棟ですが、病室から出られないような状況にあるお子さんの為に、週1回1時間程度定期的に病棟での活動が継続されています。この事例は子どもや家族を中心に医療スタッフだけでなくボランティアが関わって良い結果を残しました。けれどもこのためにはボランティアコーディネーターがいなくてはなりません。病院は院内の感染予防や医療安全に大変気をつかう場です。人と人をつなぐだけでなく感染制御室や医療安全推進室等各部署との連携や十分な話し合いが必要で、ここに述べた事例は、私自身が看護師の時には考えてこども病院の療養環境の向上のため、ボランティアコーディネーターの役割を考えさせられています。